

# 道内のアカエゾマツ人工林におけるマルナギナタハバチの被害発生状況およびシントメタマバエの1種による被害の発見

原 秀 穂



マルナギナタハバチ (*Pleroneura piceae*) はアカエゾマツの膨らみかけた芽や伸び始めたばかりの新条に潜る昆虫である。激しい食害を受けたアカエゾマツは枝が減少し貧弱な樹形になる。被害により木が枯死することはない、また、このハバチは幹頂芽をほとんど食害しないことから被害木が又木になる危険も少ない。しかし、樹形が異状になるため将来の成長が心配される。

マルナギナタハバチは古くは大雪山や阿寒湖など山岳地帯で採れているだけの珍しい昆虫であった。しかし、1980年代以降は道内各地で比較的普通にみられるようになり、1992年胆振地方東部の厚真町の若齢人工林で激しい被害が初めて発見された。これらのことから、マルナギナタハバチは近年、アカエゾマツ人工林の拡大とともに分布を広げたと考えられ、現在、道内各地で被害が徐々に進行している可能性がある。そこで、道有林管理センターおよび支庁に依頼し、1996年に全道で被害実態調査を行った。その結果について報告する。また、調査過程でシントメタマバエの1種によるアカエゾマツ被害が初めて発見された。この害虫の被害についても簡単に紹介する。

## マルナギナタハバチの被害発生状況

調査は1996年6～8月にかけて全道283カ所のアカエゾマツ人工林で行った。林齢別調査林分数は1齢級が38カ所、2齢級が215カ所、3齢級が18カ所、4齢級以上が12カ所であった。各林分において調査木を10～20本選び、1年生幹上の新条だけについて被害状況を調べた。被害状況は新条総数とマルナギナタハバチに食害された新条数とを幹になる新条と枝になる新条とに分けて記録し把握した。この際、先の部分または全体が枯れた新条や途中で切断されたような新条をマルナギナタハバチの被害を受けたものとみなした。

調査した283林分のうち、マルナギナタハバチの被害が観察されたのは1割にも満たない26林分に過ぎなかった。被害林分は以前から被害が知られている胆振地方東部のほかに、道北地方で多くみられた(図-1)。また、網走地方中部、釧路地方中部、空知地方中部、後志地方北東部、檜山地方北部でそれ



図-1 マルナギナタハバチとシントメタマバエの1種の被害林分の分布  
(数字は各支庁管内における調査林分数)

ぞれ1～2カ所被害林分が確認された。

26 被害林分のうち被害本数率が50%以上であった林分は3カ所で、胆振地方東部のほか、網走地方北西部と檜山地方北部で確認された(図-1)。その他の林分は15カ所が被害本数率20%未満、8林分が被害本数率20%以上50%未満であった(表-1)。

被害本数率20%未満の林分では激害木はみられず、中害木もわずかであった(表-1)。被害本数率20%以上50%未満の林分では激害木は6%と少なく、中害木も8%に過ぎなかった。被害本数率50%以上の林分では激害木が33%、中害木が25%に達した。

表-1 被害林分における調査木被害程度

被害木 本数率	林分 数	被害度*別本数率(%、平均)			
		無害木	微害木	中害木	激害木
20%未満	15	89.7	8.3	2.0	0
20%以上50%未満	8	70.0	16.3	8.1	5.6
50%以上	3	26.7	15.0	25.0	33.3

\*無害木 - 被害新条なし。微害木 - 被害新条有り、その割合 20%未満。  
中害木 - 同、20%以上50%未満。激害木 - 同、50%以上

### シントメタマバエの1種による被害

今回の調査で後志地方南東部にある留寿都村の2齢級の人工林2カ所でシントメタマバエの1種による被害が発見された(図-1)。この害虫の存在は以前から知られていたが、激しい被害が確認されたのはこれが初めてである。

タマバエ(玉蠅)は虫こぶを作るハエの仲間で、シントメ(芯止め)タマバエとは芽を虫こぶ化し、新条の発生を阻害するタマバエである。シントメタマバエの1種に加害されたアカエゾマツの芽は肥大し、やにで白く覆われる(写真-1)。この害虫はマルナギナタハバチと異なり頂芽も側芽同様に加害する。留寿都村の被害林分では幹頂芽の被害率が40～50%もあり、又木の多発が心配される。



写真-1 シントメタマバエの1種による被害  
(喜茂別地区林業指導事務所撮影、  
1996年8月、留寿都村)

### おわりに

今回の調査によりマルナギナタハバチの激害林分が胆振地方東部以外に新たに網走地方北西部と檜山地方北部で確認された。全道的にみれば激害林分はごくわずかで被害が拡大しているとは言いがたいが、今後も被害の動向を注意していきたい。

これまで被害記録がなかったシントメタマバエの1種による激害が後志地方南東部で発見された。幹頂芽をも加害する点でマルナギナタハバチより深刻な害虫と考えられる。被害の詳細や防除方法などについて調査・研究を進めていきたい。

末尾ながら調査していただいた道有林管理センターおよび支庁の方々にこの場をかりてお礼申し上げます。

(昆虫科)